

平成 19 年度

公立高等学校入学者選抜学力検査  
成績調査結果報告書

山梨県教育委員会

# 目 次

調査の概要	.....	1
総合得点（全教科の合計点）の調査結果概要	.....	1
教科別調査結果の概要		
国 語	.....	2
社 会	.....	4
数 学	.....	5
理 科	.....	7
英 語	.....	9
* 得点の度数分布グラフ	.....	1 1
* 平均点推移グラフ	.....	1 7
* 正答率調査表	.....	1 9

## 調査の概要

### 1 調査の目的

平成19年度山梨県公立高等学校入学者選抜のために実施した学力検査の成績結果の調査・分析を通して、本県公立高等学校志願者の学力の実態を把握し、本県中学校及び高等学校の教科教育向上のための資料とすることを目的とする。

なお、この調査は抽出調査による客観的資料であり、各教科の出題のねらいに照らしたものである。

### 2 実施日、調査教科

平成19年3月6日(火)

国語(55分)	9:30~10:25
社会(45分)	10:40~11:25
数学(45分)	11:40~12:25
英語(45分、うち「リスニング」約10分)	13:30~14:15
理科(45分)	14:30~15:15

### 3 調査対象者

全日制公立高等学校入学者選抜検査の全教科(5教科)を受検した者全員4,917人(男子2,697人/女子2,220人)を対象としている。

なお、正答率調査表については、上記受検者の中からの抽出者を対象としている。抽出人数は493人で、全体に占める抽出者の割合はおよそ10%である。なお、対象者の抽出に当たっては、全ての高等学校での受検者を対象に、その受検高等学校の受検者数に応じて、男女に関係なく、無作為に抽出した。

## 総合得点(全教科の合計点)の調査結果概要

### 1 出題のねらい、配慮事項

中学校学習指導要領に示されている各教科の目標及び内容に即して、基礎的・基本的な事項を重視するとともに、応用力をもみることができるよう出題すること。

当該教科の各分野、領域及び事項にわたって偏りのないように出題すること。

単に記憶の検査に偏らないようにし、理解力、思考力、観察力、分析力等を検査することができるように工夫すること。

全県の視野にたつて出題し、地域差による影響が生じないようにすること。

特定の教科書等の使用者が有利になることのないようにすること。

### 2 得点別にみた度数分布

総合得点の平均点は273.4点で、前年度より28.2点高い。最高点は474点、最低点は47点であり、その得点分布は(図1-1 P11)に示すとおりである。

平均点を男女別に比較してみると、男子は274.0点(前年度比+30.2点)、女子は272.7点(前年度比+25.9点)で、男子が女子より1.3点高い。その得点分布は(図1-2 P11)に示すとおりである。

### 3 平均点の推移

平成15年度から今年度入試まで5年間の全体平均点は(図1-3 P17)のように推移している。各年度ごとの難易度に差があり単純な比較はできないが、過去5年間では最高を示している。

## 国 語

### 1 出題のねらい、配慮事項

「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」及び言語事項の、国語における基礎的・基本的な学力を検査できる問題を選定した。

説明的な文章では、文章と図を比較しながら読み、目的に応じて的確に読みとる能力について検査するとともに、書き手の見方や考え方を正しく捉えることができるかについて検査する設問を用意した。

文学的文章と古典は融合的な問題とした。作品で用いられている語句の意味や、内容を正確に捉えることができるかについて、また音読を通して文章の内容を正しく読み取ることができるかについて設問を用意した。さらに、作品内容の読み取りを踏まえ、自らの考えを論理的に書き表すことができるかどうかについての設問も用意した。

### 2 得点別にみた度数分布

全体の平均点は58.9点で、昨年に比べて10.4点高い。最高点は94点、最低点は11点で、その得点分布は(図2-1 p12)に示すとおりである。

平均点を男女別に比較してみると、男子は57.5点、女子は60.5点で、女子が男子より3.0点高い。その得点分布は(図2-2 p12)に示すとおりである。

### 3 平均点の推移

平成15年度から今年度まで5年間の全体平均点は、(図2-3 p17)のように推移している。学力検査の仕組みが変更になったため、昨年度までの結果と安易に比較できないが、例年並みの平均点であった。平均点の上下がそのまま、その年度の受検生の国語力そのものを、如実に反映しているとは言い難い。しかし、じっくり考えるタイプの問題について、しっかり取り組めるようになってきている傾向がある。

平均点の男女別比較でみると、女子は男子を3点上回っている。この傾向は例年とほぼ同じである。例年は男女で5点前後の開きがあったことに比べて、今年度は男女差が2点ほど縮まっている。

### 4 大問別の内容と調査結果の分析

#### ㊦ 言語事項(漢字・書写・語彙)

一、二では基本的な常用漢字の読みと書取りを出題した。比較的易しい問題であり、よくできている。しかし、「憤慨」(中学)の読みや、「衣料」(小学校4年)の書きの正解率が低く、やや抽象度の高い語句についての読み書きの力は、確実に身につけているとは言い難い。

三の書写については、(1)の竹冠と「相」との組み合わせで、「箱」という漢字になることについては、正答率は94パーセントであった。部首を組み合わせる力は高いと言える。 (2)の第一画目の左払いについて、同じ書き順を持つ漢字を探す問題では誤答が多く、68パーセントの者が不正解であった。この問題を正解した者は32パーセントで、無答は0パーセントである。全体の3分の2の者が誤答であったということになる。

四の象形文字の中から会意文字を探す問いについては、正解は67パーセント、不正解は33パーセント、無答は0パーセントであった。しかし、象形文字の特徴である部首の意味や書き順に示される漢字の構造的な理解など、少なからぬ課題があることを示す結果となった。

㊦ 調査に基づき発表した内容の問題文を読み、発表の特徴について選択肢から正解を二つ選ぶ設問であった。ほぼ7割以上が正解で、無答が0であった。「話すこと・聞くこと」についての学習は、よく身につけている結果を示している。

### ㊦ 説明的文章 出典「生命誌の世界」中村 桂子

一は、図の中の数字を読み取ることができるかどうかについて、問う設問であった。叙述に即して図を正しく読み取るPISA型読解力に関わる設問であった、概ね半数以上の者が正解であり、よくできている。

二は、助詞「さえ」の使い方を識別する設問であった。当初の予想通り正解が44パーセントであり、半数以上の者が不正解となっている。助詞や副詞など、人の感情や細やかなニュアンスなど言葉の機微についての学習は、今後も一層深めていく必要がある。

三は、事実と意見を読み分けて論理の展開を的確に捉え、伝えたい事実を明確にすることができるかを問う設問であった。正解は8パーセント、誤答は73パーセント、無答は19パーセントであった。引用した内容と筆者の意見を読み分け、それを踏まえて指定された語句を用い、筆者の考えを再構成することができるかどうかについて問う設問であった。

言い換えるなら文章を読むに際して、「何が書いてあるのか」ととどまらず、「どのように書いてあるのか」、さらには「なぜ筆者はこのように書いたのか」という、読みを深めるスキルについての設問であった。こうした読みを深めるスキルには、大きな課題があることを示している。

四は、指示された語句の具体例を、文中から探す設問である。正解は86パーセントであった。こうしたタイプの学習は、日頃の学習でよく鍛えられている結果を示している。

五は、文章中の図表の意味と、効果を問う設問であった。(1)は正解が12パーセントであった。文章全体を要約するスキルについては、大きな課題となっている。(2)は図表の効果を問い、PISA型読解力の「熟考・評価」について問う設問でもある。これについては正答誤答とも、約50パーセントで相半ばしており、表現の仕方についての学習は、ほぼ充実していることを示す結果となった。

六は、文章の展開を確かめながら、要旨をとらえることを問う設問である。選択肢から選ぶ形式であったためか、約60パーセントが正解であった。

全体的に選択肢から選ぶ形式の正答率は高くなるが、自ら読み取った内容で文章表現する設問は、課題が多い。設問三を除き、無答は殆どの設問で1パーセント程度であり、解答する意欲は高いと言える。PISA型読解力でもある、自らの言葉に直して表現する「熟考・評価」の技能については、大きな課題である。

### ㊧ 文学的な文章 出典「人生の特別な一瞬」『地図を旅する』長田 弘

「第15段」『すらすら読める徒然草』中野孝次

一は、文中の語句の意味を正しく理解する設問である。選択肢から正解を選ぶ形式であるためか、70パーセントが正解であり、良くできている。

二(1)は、形容動詞「なまじい」の語が、本文中で用いられている意味を特定する設問である。選択肢から選ぶ形式だが、61パーセントが誤答である。語彙力については、大きな課題があることを示している。

二(2)は、本文の内容を端的に示す「空想の旅」という4字の語句を取り出す設問である。正答誤答とも約50パーセント程度で相半ばしており、概ねできている。

三(1)は、古文の音読に関する設問である。77パーセントが正答であり、様々な種類の文について読む訓練は身につけている。

三(2)は、指示内容を正しく指摘する設問である。正答が23パーセント、誤答が77パーセントであり、文脈を踏まえて指示内容を確認するスキルは未熟である。読解力について大きな課題があることを示している。

四は、内容読解に基づき、作品の特徴を捉えた選択肢を選ぶ設問であった。正答誤答とも50パーセント程度で拮抗しており、文脈全体の特徴を捉える力はほぼ身につけている結果となっている。

五は、読むこと、書くことについての設問である。二段落構成とし、前段は読み取った内容を、後段は本文で語られた「旅」に関し、自らの意見を述べる設問である。正答は55パーセントであり、ほぼ

半数以上の者が15点中8点以上の得点を得ている。ただし、きちんと全部書いて満点を取った生徒のパーセントは0であり、指示された条件を全て踏まえ、文章表現を作ることについては、学習が不足していることを示す結果となっている。

## 5 全体を通しての考察

基本的な常用漢字の読み書き等の言語事項については、よく学習が身に付いている。書写では、漢字の書き順や漢字の構造に関する知識は不十分な面もある。また、助詞や語句の文脈で用いられている意味を類推する設問は、6割前後の生徒が誤答であり、語彙力の不足が顕著であることを示している。

説明的文章や文学的文章とも、選択肢や指示語に関する設問は、正解率が高い。しかし、図と文章を比較して脈絡を正しく読み取ったり、自分の言葉に置き換えて理解し、それをもとに考察を進める読解は、習熟していない傾向がある。

概して、基礎的な学習は身につけているといえるが、様々な文章の読解や、自らの考察を行うような、「読解力」については課題がある。

# 社 会

## 1 出題のねらい、配慮事項

地理的分野、歴史的分野、公民的分野の三分野にわたって、基礎的・基本的な学力が検査できるように配慮した。

写真、図、表、グラフなどの資料を通して、思考したり、判断したり、表現したりする力を問い、また多角的・多面的な資料活用能力を問うようにした。

興味・関心に応じて選択のできる問題を採り入れた。

中学校学習指導要領の趣旨にそった出題に心がけるとともに、身近な地域である山梨に関する題材をできるだけ取り入れるように配慮した。

## 2 得点別にみた度数分布

平均点は57.7点で、昨年に比べ8.5点高い。最高点は100点、最低点は5点で、その得点分布は(図3-1 p13)に示すとおりである。

平均点を男女別に比較してみると、男子は59.0点、女子は56.2点で、男子が女子より2.8点高い。その得点分布は(図3-2 p13)に示すとおりである。

## 3 平均点の推移

平成15年度から今年度まで5年間の全体平均点は(図3-3 p17)のように推移しており、各年度ごとの難易度に差があり単純な比較はできないが、3年ぶりに成績が上昇した。また、男女別比較でみると男子は女子を上回っている。

## 4 大問別の内容と調査結果の分析

### 1 地理的分野

世界の大まかな気候区分・気候条件についての基本的な理解や、都道府県規模の農業調査に適した資料を比較検討して選択する基礎的な思考力・判断力は、概ね定着している。しかし、山梨県の人口(概数)に関する知識を前提とした問題の正答率は低かった。また、与えられた資料をもとにして、世界四都市の雨温図の相違をよみ取り、各都市の気候条件を正しくとらえる問題も、低い正答率であった。

### 2 歴史的分野

「平安」京という名称を導き出す問題、聖徳太子の業績を的確な資料に基づいて指定された字数で表現

する問題、「文明開化」の具体的な事例を見分ける問題などの正答率は高く、歴史学習における基礎的・基本的事項は概ね定着している。一方、近現代の日中関係のできごとの並び替えや都市名とその位置を導き出す問題など、複数の事象の比較や関連付けを問う問題では、予想よりも低い正答率であった。

### 3 公民的分野

与えられた資料をもとに、国会の種類や国の歳出内訳を特定する問題、三審制のしくみを理解し上訴や裁判所の種類を特定する問題は正答率が高く、公民的分野の学習における基礎的・基本的事項は概ね定着している。また、差し迫った課題である温暖化防止を問う問題は高い正答率であった。反面、国連の各機関の定義から「PKO」を導き出す問題は、予想より低い正答率であった。

### 4 3分野総合

州別人口についての知識をもとに、「世界人口の推移と予測」のグラフを正確により取る問題、現代の「食料危機」との関連で江戸時代と室町時代の一揆の違いを問う問題、写真と問題文から「ベルリンの壁の崩壊」をよみ取り「ドイツ」という国名を特定する問題などの正答率は高く、基礎的・基本的事項は概ね定着している。しかし、核兵器や核軍縮の歴史、その現代的課題を問う問題は正答率が予想より低く、工業化の進展の状況と、それに伴う発展途上国における経済格差を問う問題の正答率も芳しくなかった。

## 5 全体を通しての考察

基礎的・基本的な部分に関する知識や理解力、資料活用の技能、思考・判断力は概ね身に付いている。このことは、昨年に比べて平均点が上昇したことからもうかがえる。しかし、複数の資料からよみ取った情報を、問いに沿って、論理的に結びつけ、答えを導き出していく思考・判断力に不足している面が見られた。

県名とその位置や核軍縮の現代的な課題などのような基礎的・基本的な知識の確実な定着を図るとともに、社会的事象にさまざまな視点から考察の光をあて、対象の全体像を明らかにするような複眼的な思考力の育成が求められる。

## 数 学

### 1 出題のねらい、配慮事項

数と式、図形、数量関係の各領域にわたって、基礎的な概念・原理・法則の理解や数学的な表現・処理の能力の把握に重点を置きながら、事象を数理的に考察する能力や数学を活用する態度が検査できるよう、次の点に配慮して出題した。

自ら課題を見つけ、主体的に問題を解決する場面を設けた。

数学的な見方や考え方を活用し、解決する場面を重視した。

複数の領域にわたって総合的に考える場面を設けた。

思考過程や問題解決の手順などが検査できるように、記述式の解答形式を多く取り入れた。

### 2 得点別に見た度数分布

平均点は42.5点で、前年より4.2点低い。最高点は100点、最低点は0点で、その得点分布は(図4-1 p14)に示すとおりである。

平均点を男女別に比較してみると、男子43.8点、女子40.9点で、男子が女子より2.9点高い。その得点分布は(図4-2 p14)に示すとおりであり、51点以上において、男子の度数が女子の度数と比べて大きく上回っている。

### 3 平均点の推移

平成15年度から今年度入試までの5年間の全体平均点は(図4-3 p18)のように推移している。いずれの年度においても男子の平均点は女子の平均点より2点程度上回っている。学習指導要領の移行措置以降、数学的な見方や考え方を問う問題や思考過程を記述する問題を多く取り入れてきたが、全体では40点台を推移している。

### 4 大問別の内容と調査結果の分析

#### 1 「数と式」の基本的な数式の処理ができるか。

全体的には高い正答率であった。6問中5問が85%を超え、そのうち3問は90%を上回った。最も正答率の低いものは、正負の単項式の乗法の問題であったが正答率は84.9%であり、基本的な計算処理については、ほぼ定着していると考ええる。

#### 2 基礎的・基本的な数学的知識に基づき、表現・処理することができるか。

5問中3問が85%を超え、概ね十分な正答率であった。特に、枝問3の2つの図形が相似であることを利用し、辺の長さを求める問題の正答率は高く90.1%であったが、枝問4の簡単な事象の確率を求める問題、枝問5の与えられた点を通り、辺に対して垂直に交わる直線を作図する問題は65%程度であった。ほぼ同レベルの基本的な問題であったが、分野により正答率に差があった。

#### 3 事象の中の2つの量の関係を考察し、その関係を表現することができるか。グラフをかいたり、そのグラフを利用して、課題を解くことができるか。

全体的に想定を下回る正答率であった。題意を読み取り2つの量の関係を見いだすことができるかどうかを問う問題31.4%、そのxの変域を求める問題15.2%は想定を大きく下回っている。また、2つの量の関係を見だし、グラフで表現することができるかどうかを問う問題、yの値からxの値を求めることができるかを問う問題も想定を下回った。題意を読み取り、そのなかから2つの量の関係を分析し数値化しグラフ化するという基本的な考察力と表現力が不十分である。

#### 4 身近な事象の中から規則性を見だし、あてはまる数や式を求めることができるか。また、その規則性を利用して問題を考察することができ、かつその思考の過程を説明することができるか。

枝問1(1)で身近な事象の中から規則性を見だし、あてはまる数や式を求めることができるかどうかを問う問題については、70.0%で想定通りの正答率であった。しかし、枝問1(2)で規則性を利用し、数量を文字を用いた式で表すことができるかどうかを問う問題で、規則性の考察を通して文字式で表現することとそれを計算することを求めたが、正しく求められた受検生は11.8%と想定を大きく下回った。また、枝問2で規則性を応用し、問題を解くこと、および、その過程を説明することができるかどうかを問う問題についても想定を下回っている。枝問2の無答率は60%を超えていることから、規則性を数学的に考察し、その過程を表現する力が不十分であると考えられる。

#### 5 関数のグラフについて、図形の性質と総合して考察することができるか。

枝問1は70.4%と想定正答率に近かったが、その他は不十分な正答率であった。どの枝問も関数のグラフ上の点と基本的な図形の性質を総合して考察し処理する問題である。枝問1、2(1)は関数 $y = ax^2$ のグラフが通る点の座標から、比例定数を求めることができるかどうか、また、グラフと平面図形の性質を利用し、面積や直線の式を求めることができるかどうかを問う問題であったが、2つの基本的な学習事項を的確に組み合わせて思考する習慣があれば正答に至ることができる問題である。

#### 6 図形の基本的な性質を用いて論理的に考察したり、推論の過程を表現したりすることができるか。

枝問1の基本的な図形の性質に関する問題は61.5%と想定を下回る正答率であった。枝問2の図



形の証明問題は正答率が12.6%であった。例年、合同条件か相似条件を用いる問題が多く出題されていたため、角度に関する基本的な問題の割には正答率が低かった。結論を導き出すために見通しをもって段階を踏んで考察し、それを表現することに不十分さが見られる。

7 空間図形を多面的に観察・考察し、的確に処理することができるか。

全ての枝問で想定を下回る正答率であった。枝問1は、空間図形を2つの回転体をもとにして体積を求める問題であるが80%の受験生が解答に臨んだが、正答に至ったのはその10%程度である。枝問2, 3は、空間図形を2つの展開図をもとにして考察し、表面積や線分の長さを求める問題である。2, 3ともに10%に満たない正答率であった。空間図形を多面的に捉えること、基本的な計量を順序立てて求めることが不十分であると考えられる。

5 全体を通しての考察

基礎的・基本的な知識や技能については、ほぼ十分な定着がうかがえる。しかし、数学的な見方や考え方が要求される設問や複数の領域の内容を総合して扱う設問での正答率が低い傾向がうかがえる。単に問題を処理するための知識や技能の習熟にとどまらず、身近な場面や数学的な事象に、基礎的・基本的な知識や技能を積極的に活用することにより、見方や考え方を磨き、創造的な思考力を身につけることが求められる。また、ねばり強く考えることや、自らの考えを言葉や式、図形などを用いて数学的に表現したり説明したりすることを習慣化することが必要である。

## 理 科

1 出題のねらい、配慮事項

学習指導要領の趣旨に基づき、「自然に対する関心を高め、目的意識を持って観察、実験などを行う」に留意した。また、理科への興味・関心、思考力・判断力、表現力等が見られるように配慮した。全学年にわたり、第1分野、第2分野の全領域から偏りのないよう、学力が検査できるようにした。観察、実験を重視し、自然の事物や現象を理解するための基礎的・基本的事項についての学力が検査できるように配慮した。

思考過程や問題解決の手順など論理的な思考力が検査できるようにした。

日常的な自然現象に関心をもち、学習したことを基に考えようとする力を検査できるように配慮した。

身近な材料を使い学習内容を確認することで、理科の実用性を感じることができるよう配慮した。

2 得点別にみた度数分布

平均点は56.5点で、前年より14.5点高い。最高点は100点、最低点は3点で、その得点分布は(図5-1 p15)に示すとおりである。

平均点を男女別に比較してみると、男子は57.6点、女子は55.1点で、女子が男子より2.5点低い。男女別の得点分布は(図5-2 p15)に示すとおりである。

3 平均点の推移

平成15年度から今年度までの5年間の全体平均は(図5-3 p18)のように推移している。思考力・判断力を問う問題が増え、平均点が下がる傾向が見られたため、今年度は計算問題を減らし、解答時間に余裕をもたせた結果、平均点が上昇したと考えられる。

また、男女別比較で見ると、毎年女子が男子を下回っている。

#### 4 大問別の内容と調査結果の分析

##### 1 雲のでき方に関する問題

身近に感じられる題材（登山）を通して、「湿度」や「雲のでき方」を理解しているかを問う問題である。基本的な問題が多く正答率も高かったが、3の「凝結」に関しては、理解がやや不十分であった。

##### 2 光の進み方に関する問題

鏡やガラスにより、光の進み方がどう変化するか（反射・屈折）を、日常生活の中で、実際の現象と結びつけることができているかを問う問題である。全体的に正答率は高く、授業で学んだ知識が、日常生活に適用できる「生きた知識」となっていることがわかる。

##### 3 天体の運動に関する問題

カシオペア座とオリオン座を題材に、日周運動と年周運動による星座の運動を取り上げながら、金星の見え方についても、その特徴を理解しているかを問う問題である。1の「カシオペア」は教科書にも記述されているが、正答率は31%と意外に低かった。また、3の日周運動による天体の運動については、回転方向を逆にした生徒も多く、「夜空」から生徒の興味が離れつつあることが心配される。

##### 4 植物のつくりに関する問題

身近な植物の観察を通して、植物に共通なつくりや、植物の分類ができるかを問う問題である。基本的な問題であったため正答率は高い。

##### 5 生物のつながりに関する問題

食物連鎖と、気体や有機物の循環について、基本的な知識が理解できているかを問う問題である。基本的で、質問の仕方も平易であったため、正答率は高い。

##### 6 電流のはたらきに関する問題

身近な材料である「懐中電灯」を題材として、回路図や計器の使い方、また電流のはたらきについて、知識が実生活に生かせるかを問う問題である。回路図の書き方は予想以上に定着していたが、2(2)のように見慣れない配線図から、計器の正しいつなぎ方を見分けるような思考力を要する問題では正答率は10%と低かった。

##### 7 水溶液の性質に関する問題

種々の水溶液の性質について理解し、系統的に整理されているかを、実験を通して問う問題である。1(2)の「塩化水素」を答える問題では、正答率が3%と極端に低くなった。「溶液は溶媒と溶質からなり」「塩酸の場合には、その溶質が塩化水素である」ことが、両方とも理解できている生徒が少なかったためと考えられる。

##### 8 化学反応と熱に関する問題

「化学カイロ」という身近な物を使い、中学時代に学習した知識が整理されているかを問う。特に、実験結果を予想したり、その予想を確認するためにはどのようにしたらよいかを考えられるように出題した。比較的正答率は高かったものの、パターン学習（酸素＝線香の火＝激しく燃える）の弊害も見られた。

#### 5 全体を通しての考察

中学校の学習指導要領に示された目標・内容に則して、全分野から基本的な学力を測る問題である。例年のように、覚えたことを答える問題や問題集等にあるパターン化された問題については正答率は高

い。しかし、教科書に記載されていても、太字でない語句やいくつかの分野にまたがっている内容に関わる語句に関しては、正答率が極端に下がる傾向が見られる。また、学習指導要領のねらいのひとつである思考力を問う問題に関しては、結論を組み立てていくような問題の正答率が低くなっている。論理的に思考することを苦手とする生徒が多いためと考えられる。

実験や観察の結果から疑問点を見つけ考えられる力や、基本的な法則や自然現象をより深く考えられる力の育成を、さらに進めていく必要がある。

## 英 語

### 1 出題のねらい、配慮事項

中学校学習指導要領に示されている外国語の目標および内容に即して、基礎的・基本的な事項の理解度を評価できるように配慮し、「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の各領域にわたって出題し、総合的な英語の学力が検査できるようにした。

学習指導要領では、「聞くこと」「話すこと」などの実践的コミュニケーション能力が重視されているので、リスニングテストの比重を30%程度とした。リスニングによる検査問題には、「聞くこと」と他の領域をリンクさせた問いを含めた。

読解については、文脈の理解を問う問題も入れ、英語を理解する能力を様々な方法で検査できるようにした。また、条件英作文やスピーチを書く問題でコミュニケーション能力の重要な要素である「表現力」も検査できるようにした。コミュニケーションを妨げないようなミスは減点しないこととした。

### 2 得点別に見た度数分布・平均点の推移

平均点は57.9点で、前年より1点低い。最高点は100点、最低点は4点で、その分布は(図6-1 p16)に示す通りである。

平成15年度から今年度入試までの5年間の全体平均は(図6-3 p18)のように推移している。また、男女別比較でみると、女子は男子を上回っているが、今年度においては、その差は3.7点と、昨年度(4.3点)に比べて、減少している。

### 3 大問別の内容と調査結果の分析

#### ① 「聞くこと」に係る問題

音声とイメージを直接結びつけることにより、英文を聞き取る基礎的能力を検査できるようにした。正答率は全4問平均で79.8%で基本的な聞き取る能力は良好といえる。4の正答率が特に低かったのは、形式が他と違ったことと、thirdを聞き取れなかったのではないかと考えられる。

#### ② 「聞くこと」「話すこと」に係る問題

基本的な日常会話表現を中心に、英語で表現するための能力を評価できるようにした。全5問の平均正答率は、77.6%で良好な結果である。日常的な表現はほぼ定着していると考えられる。

#### ③ 「聞くこと」「読むこと」「書くこと」に係る問題

日本を訪問するMikeを連れて清里に行こうと電話で相談している場面を設定した。「聞く」能力に加えて、答えを「書く」という能力も評価できるようにした。

1, 2の選択肢から選ぶ問題の正答率は、平均67.5%だが、記述式の3, 4は正答率が下がり、0点の者が3で43%, 4で39%であった。綴りミスなどによる減点も見られ、正確に理解し、正確に書くことに課題があると言える。

#### ④ 「読むこと」「書くこと」に係る問題

従来の会話文形式を手紙文に変更した。

英国のノリッジに滞在しているMinakoがホストファミリーの様子などを日本にいるKumiに電子メールで伝えるという内容の英文。英語を運用する上で必要な基礎的言語材料についての知識や、文脈を把握する能力、英文を要約する能力、日常的な事柄を英語で表現するための基礎的な能力を、評価できるようにした。

設問4, 5は日本語の内容を英文にする問題だが、5については、主語が与えられていないことと、「・・・つもりです」という表現が、受験生には難しかったと思われる。

設問1のCは正答率が25%と低いが、記述式の設問でもあり、助動詞を用いた文でもあることによるものと考えられる。

設問3は、文脈の理解度を問う新傾向の問題だが、正答率は47%であった。ひとつひとつの文ばかりでなく、英文全体の流れを正確に理解する力の育成が今後求められる。

設問6は、本文の内容を英語で要約する問題。正答率が39%と低いが、前につく代名詞が本文と違うこと、形容詞が要約文では落ちていることなどによるものと思われる。この設問では要点を正確に理解する能力が求められている。

#### ⑤ 「読むこと」「書くこと」に係る問題

中国から訪れた生徒たちとの交流を通して、国際語としての英語の重要性を認識するという内容の英文を読み、その概要を把握するとともに、英語で自己表現する問題。

質問の答えを選択させたり、段落ごとに内容をつかませたり、グラフを完成させたりすることで、様々な観点から生徒の英文を理解する能力を評価できるようにした。

また、日本について紹介するスピーチを5つの英文で書かせることによって、基礎的な表現力を評価できるようにした。この設問では、コミュニケーションを妨げない綴りのミスなどは減点しないこととした。

内容理解を問う設問1, 2については、問い1が正答率の平均が67.7%, 設問2が平均58.7%であり、全般に良好であった。

設問3の(ア)は、one hundred and twelveを数字に直す問題で、正答率は56%であった。twelveをtwentyととらえたためと考えられる。

設問5については、英文を5つ書いたものが41%あるにもかかわらず、無答のものが29%あった。テーマが日本を紹介するという、日常的なものなのにもかかわらず、この無答率はやや高いと言える。日常的なテーマについてまとめた英文を書く力の育成が求められる。

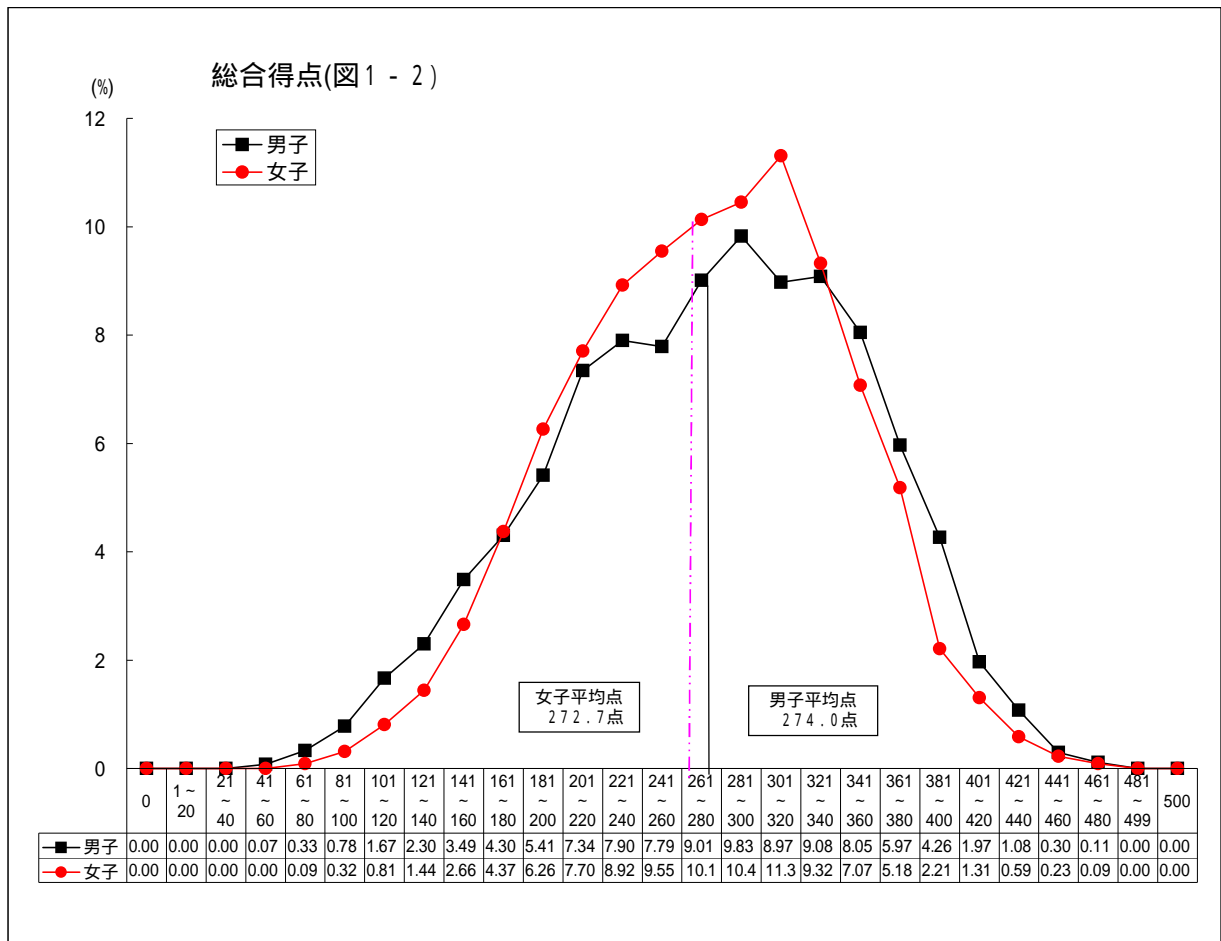
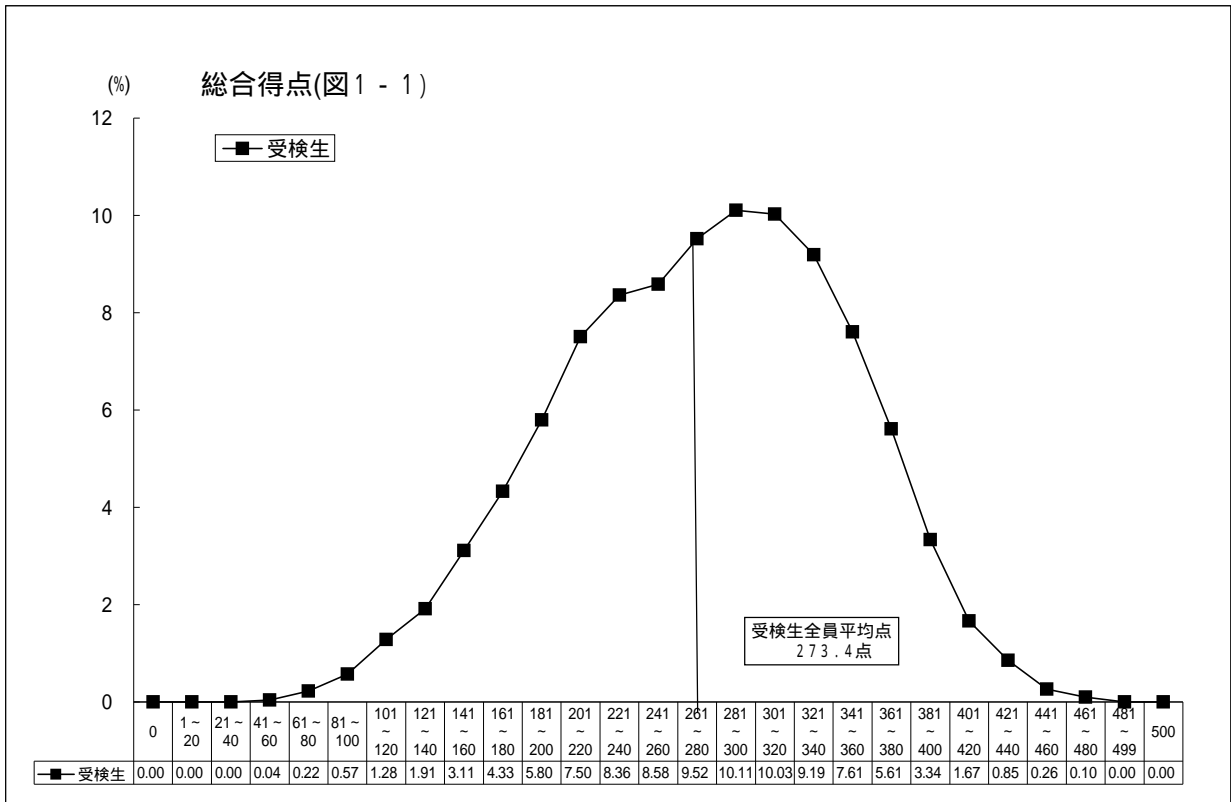
#### 4 全体を通しての考察

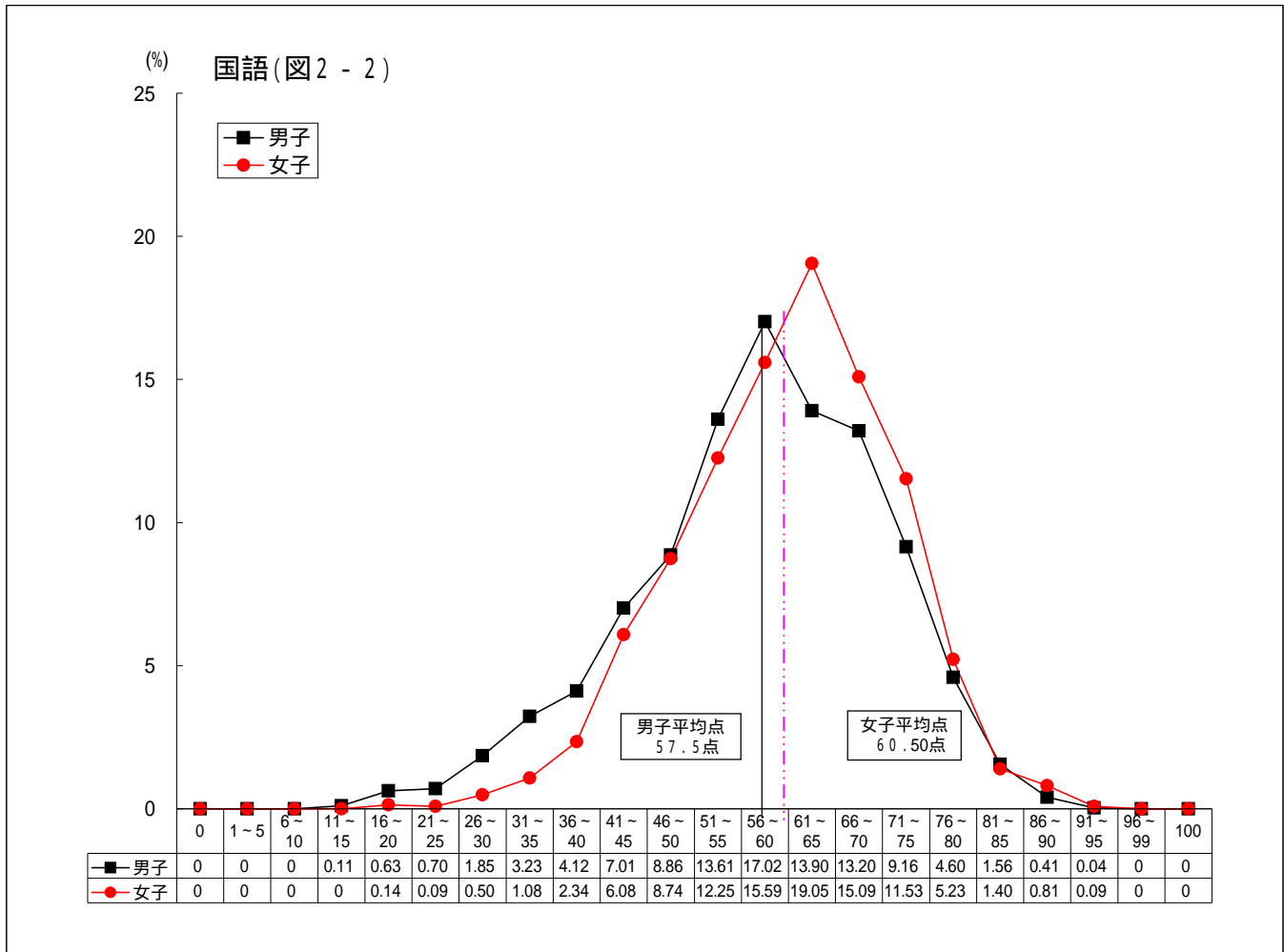
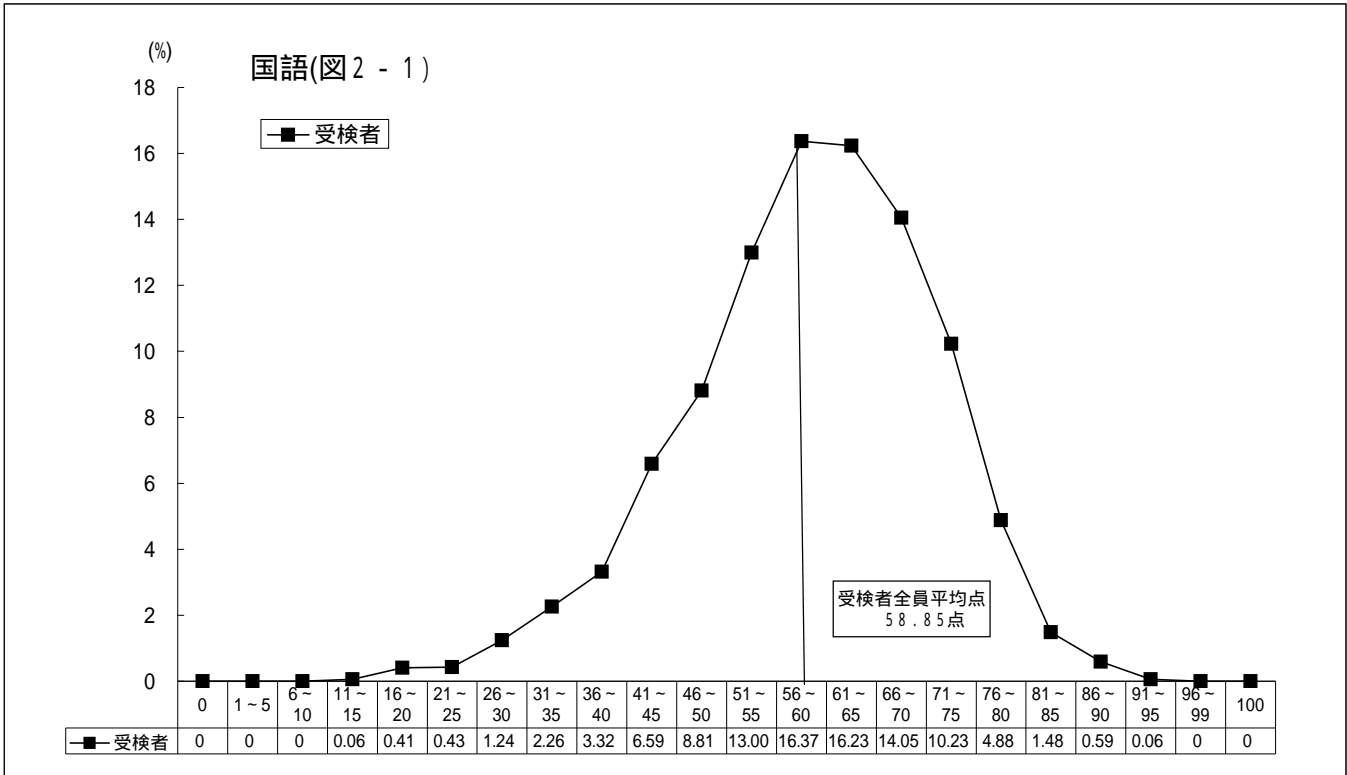
「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の4領域について、知識・理解に偏ることなく、基本的な英語運用能力を検査できる問題とした。

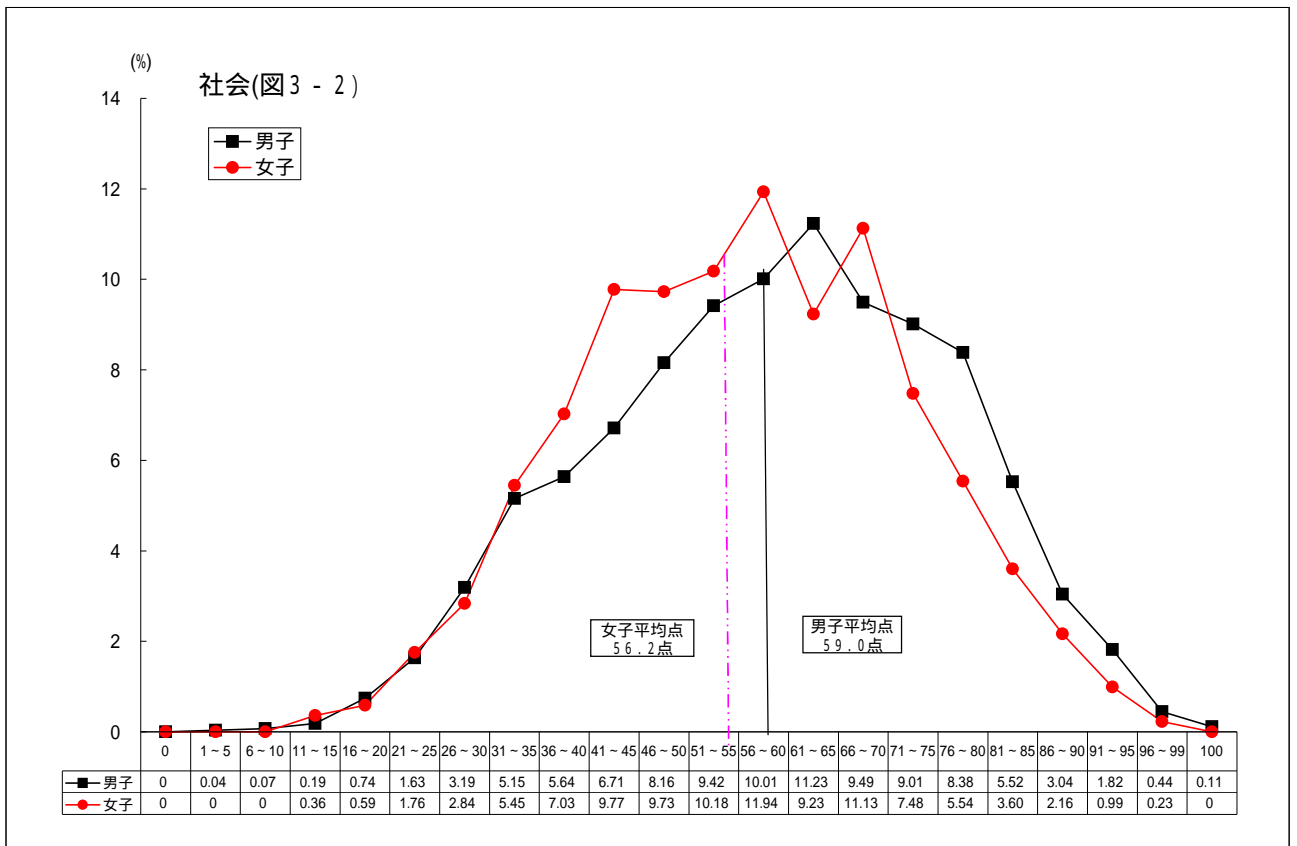
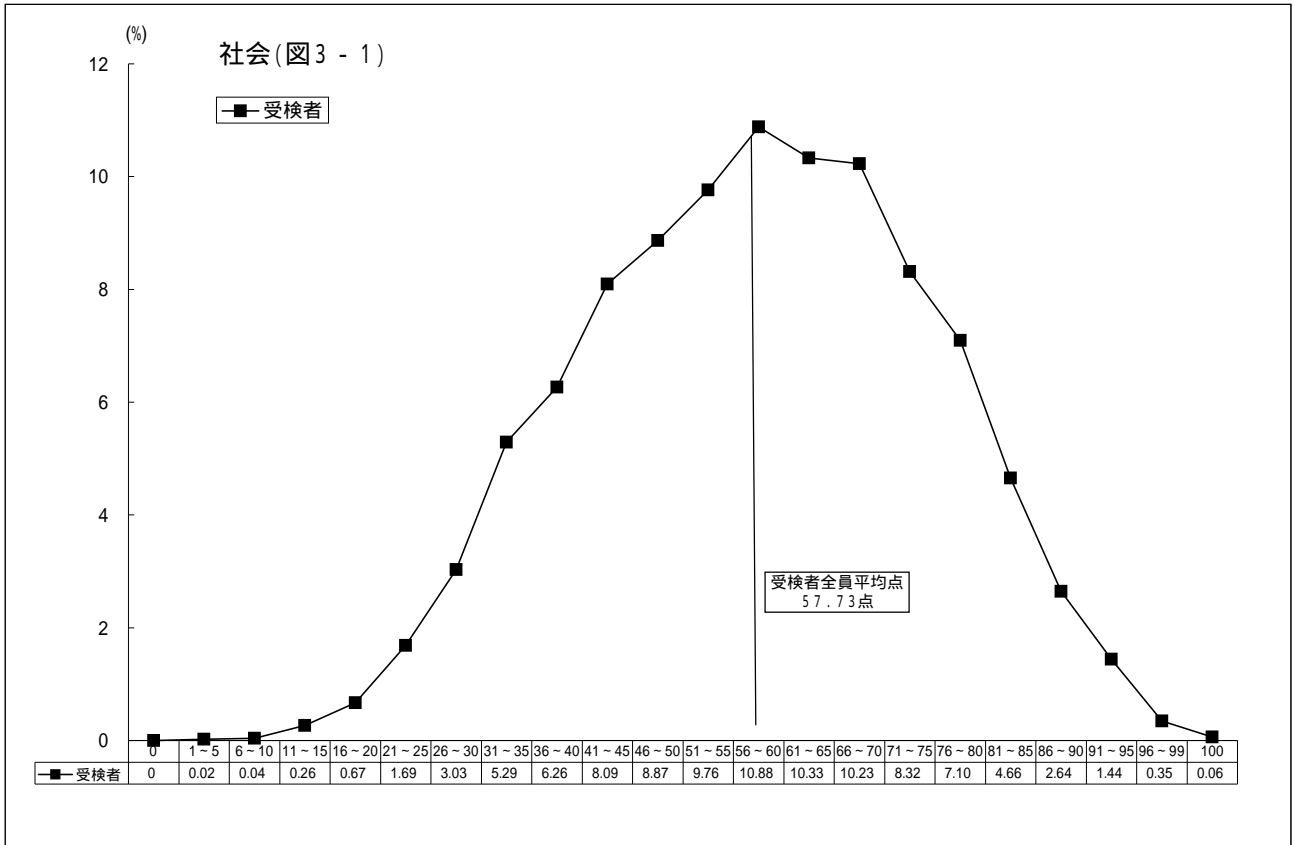
「聞くこと」については、基本的な能力は概ね良好と言える。要点を押さえ、聞き取ったことを正確に「書く」部分が十分とは言えず、今後の課題である。

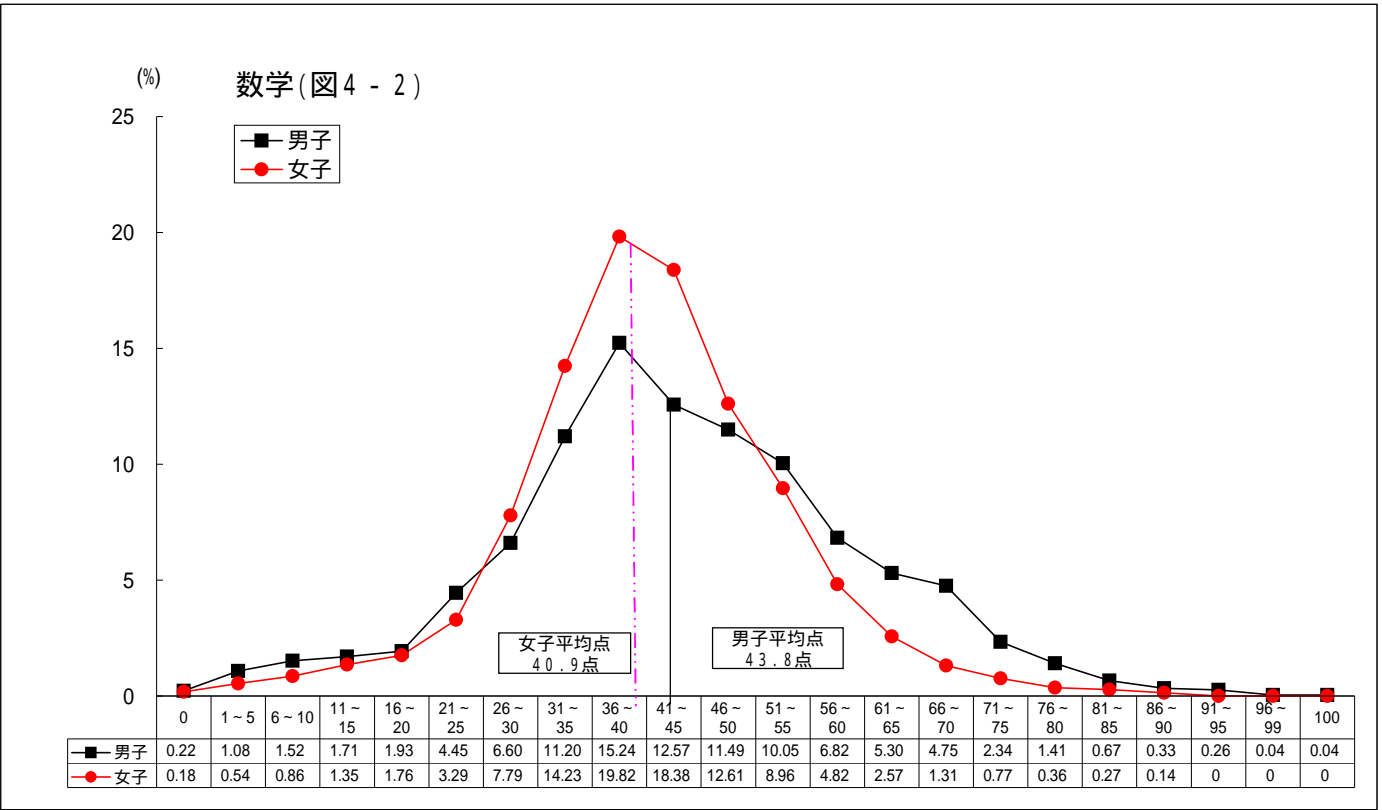
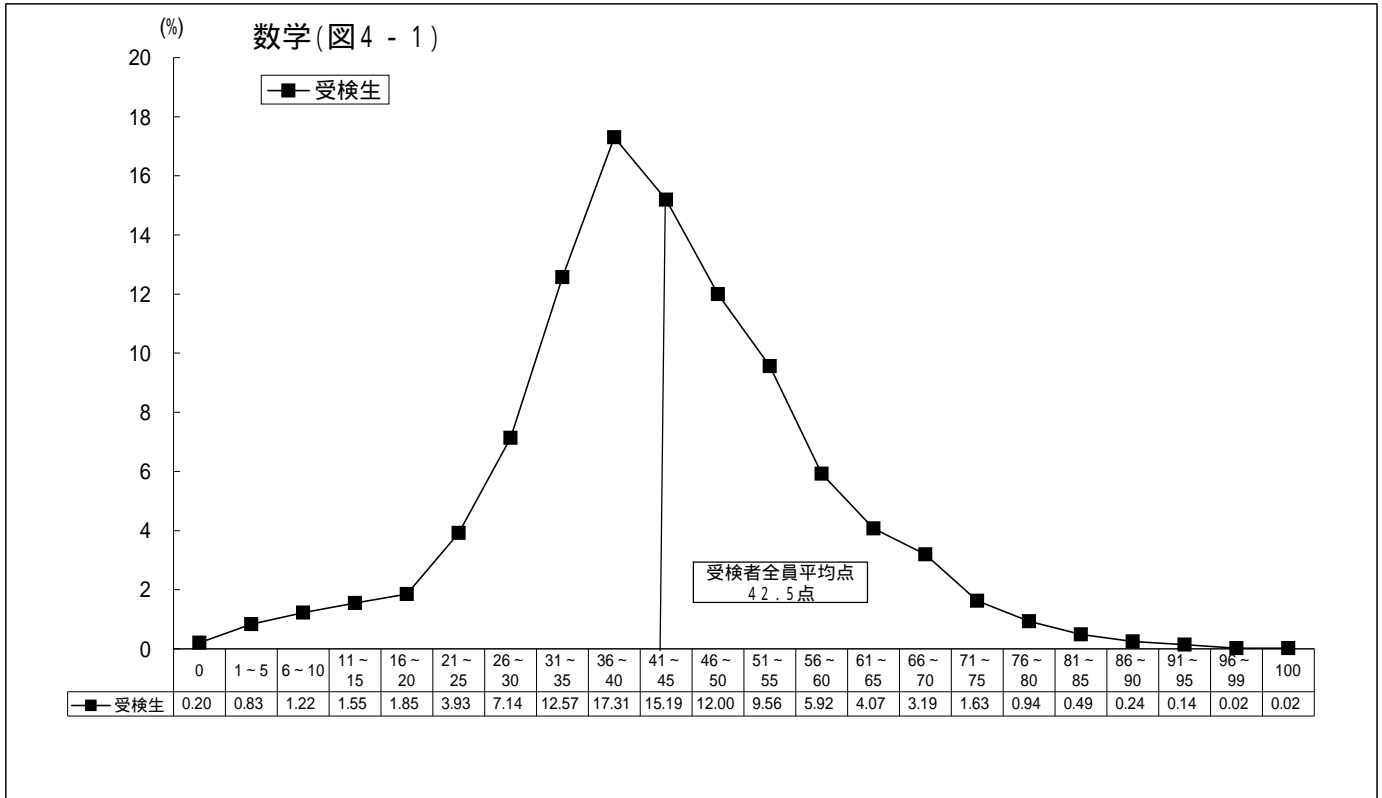
「読むこと」については、英文を読んで理解した時どのようなことができるか、という観点から多様な出題をした。全般的には概ね良好な結果であった。また、文脈の理解を問う問題を今年初めて出したが、正答率は十分とは言えず、課題である。

「書くこと」については、間違いを恐れず、意欲的に、日常的なテーマについてまとめた内容を自分の言葉で表現できるような英語力の育成が求められる。

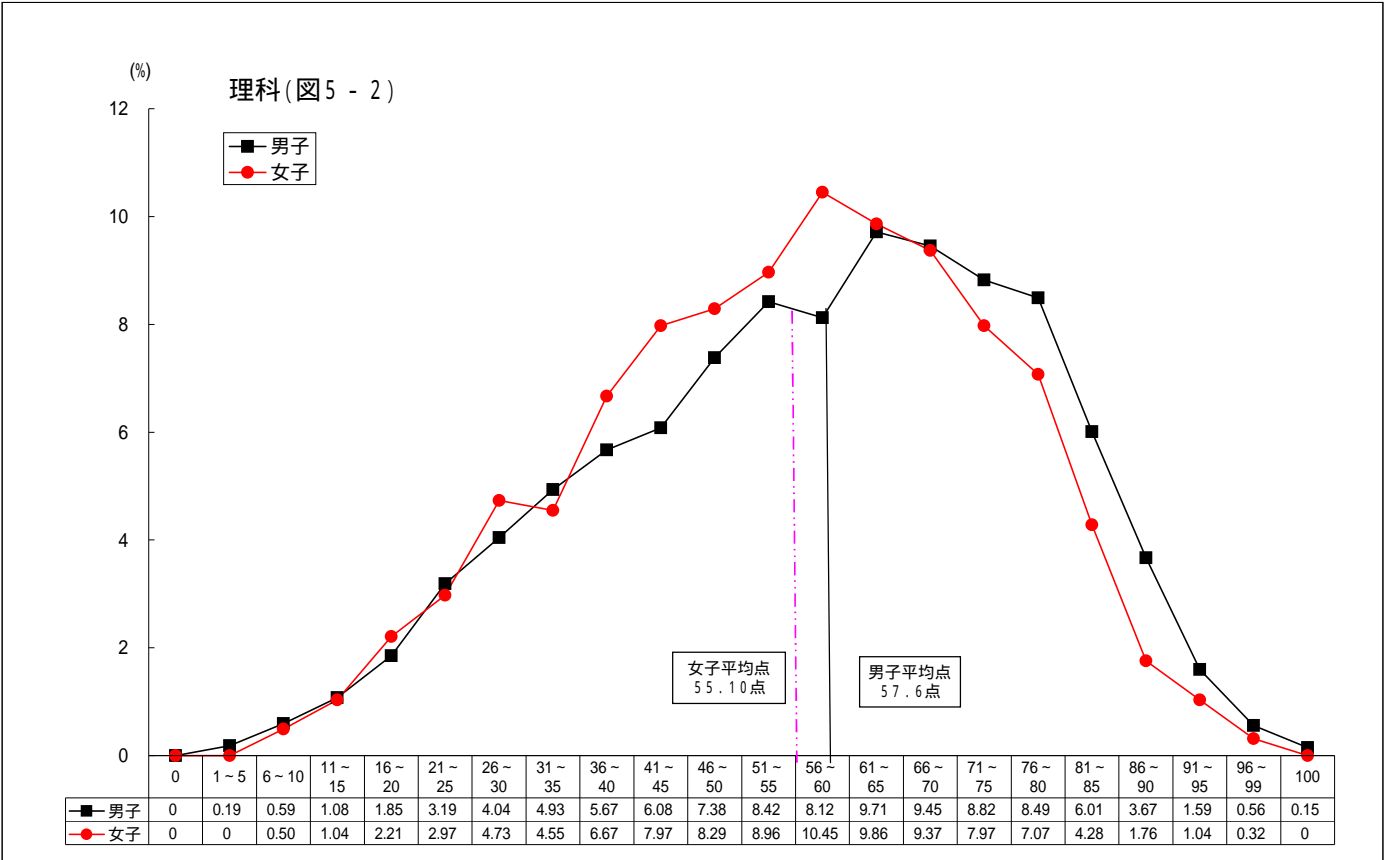
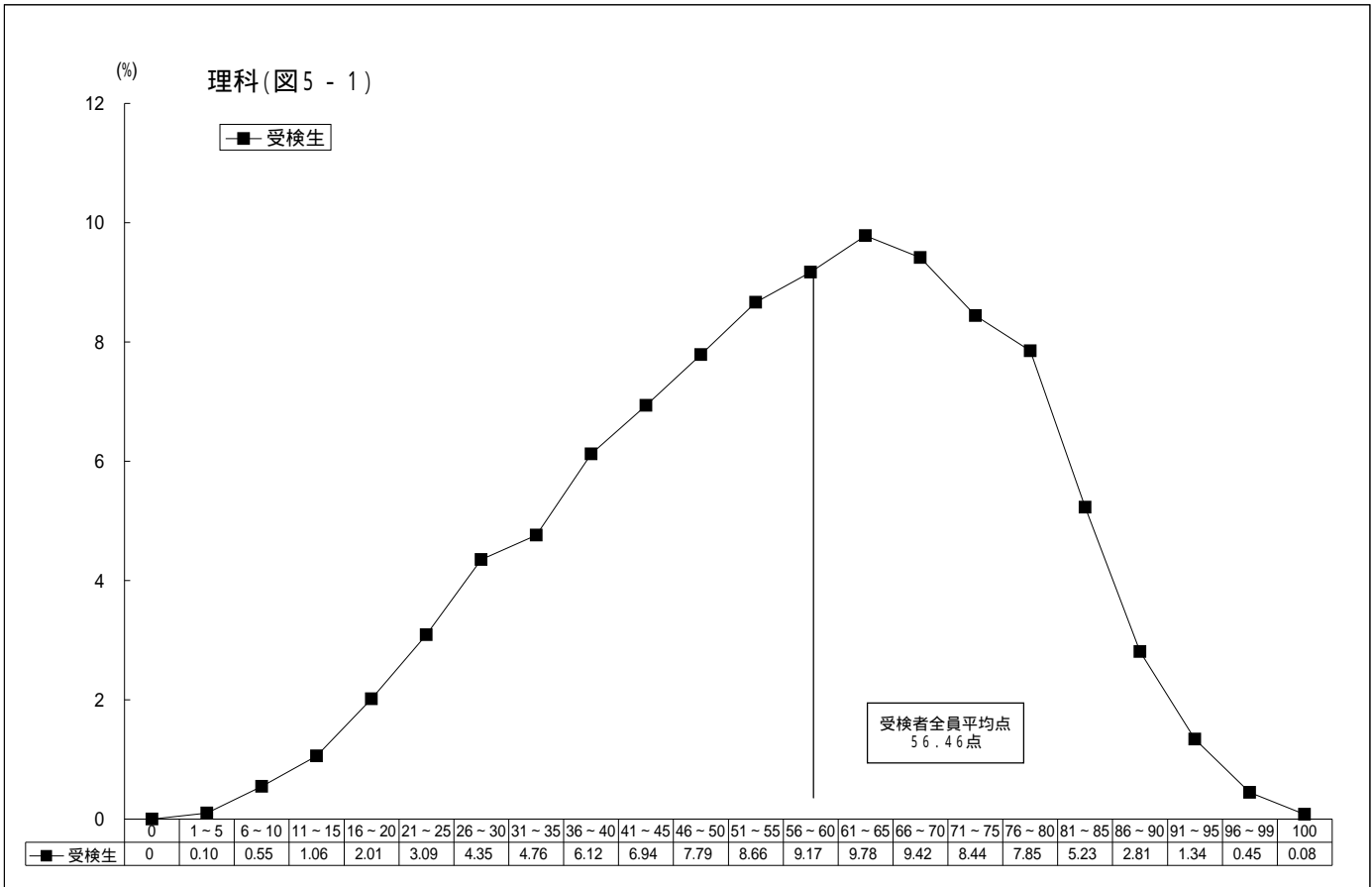


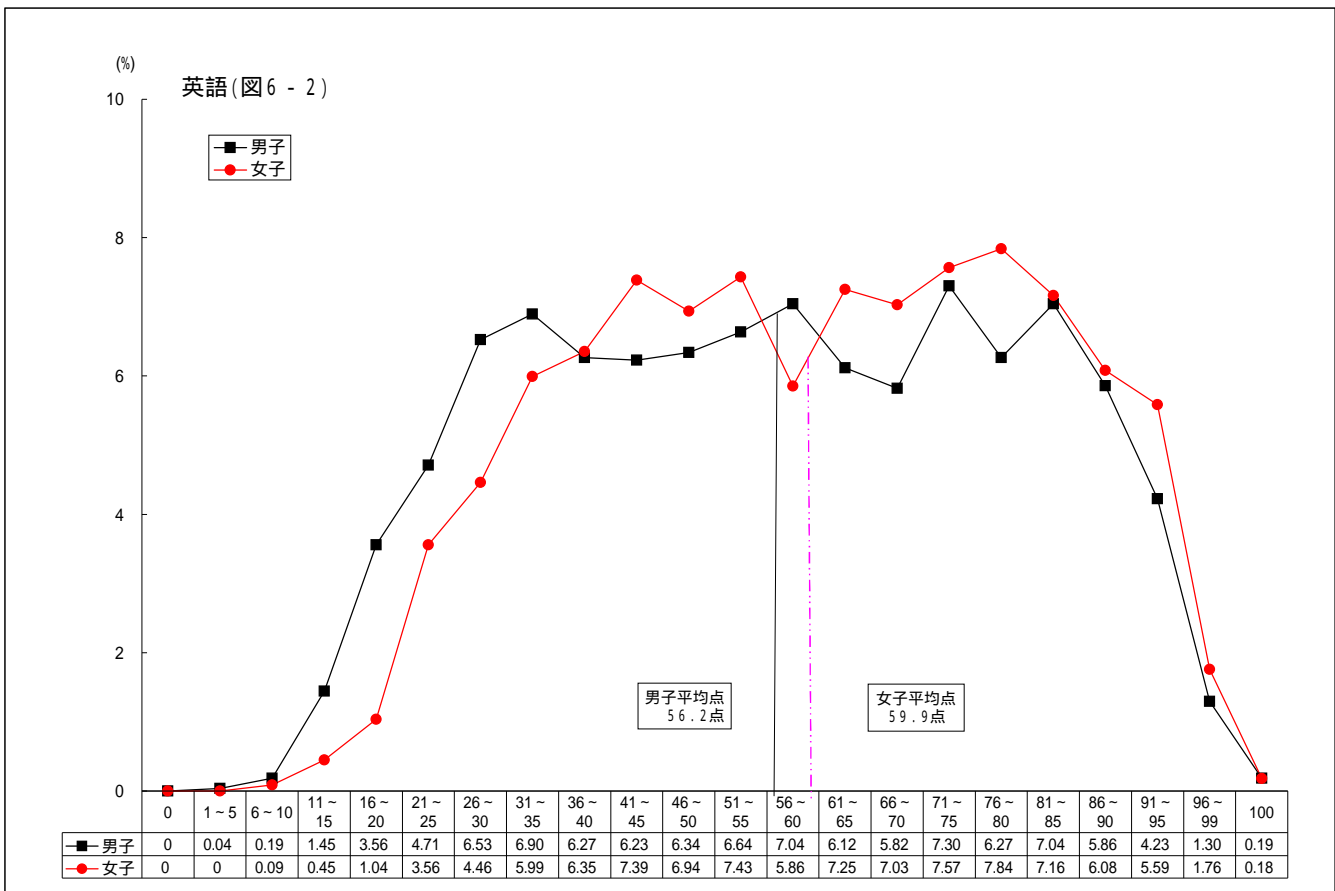
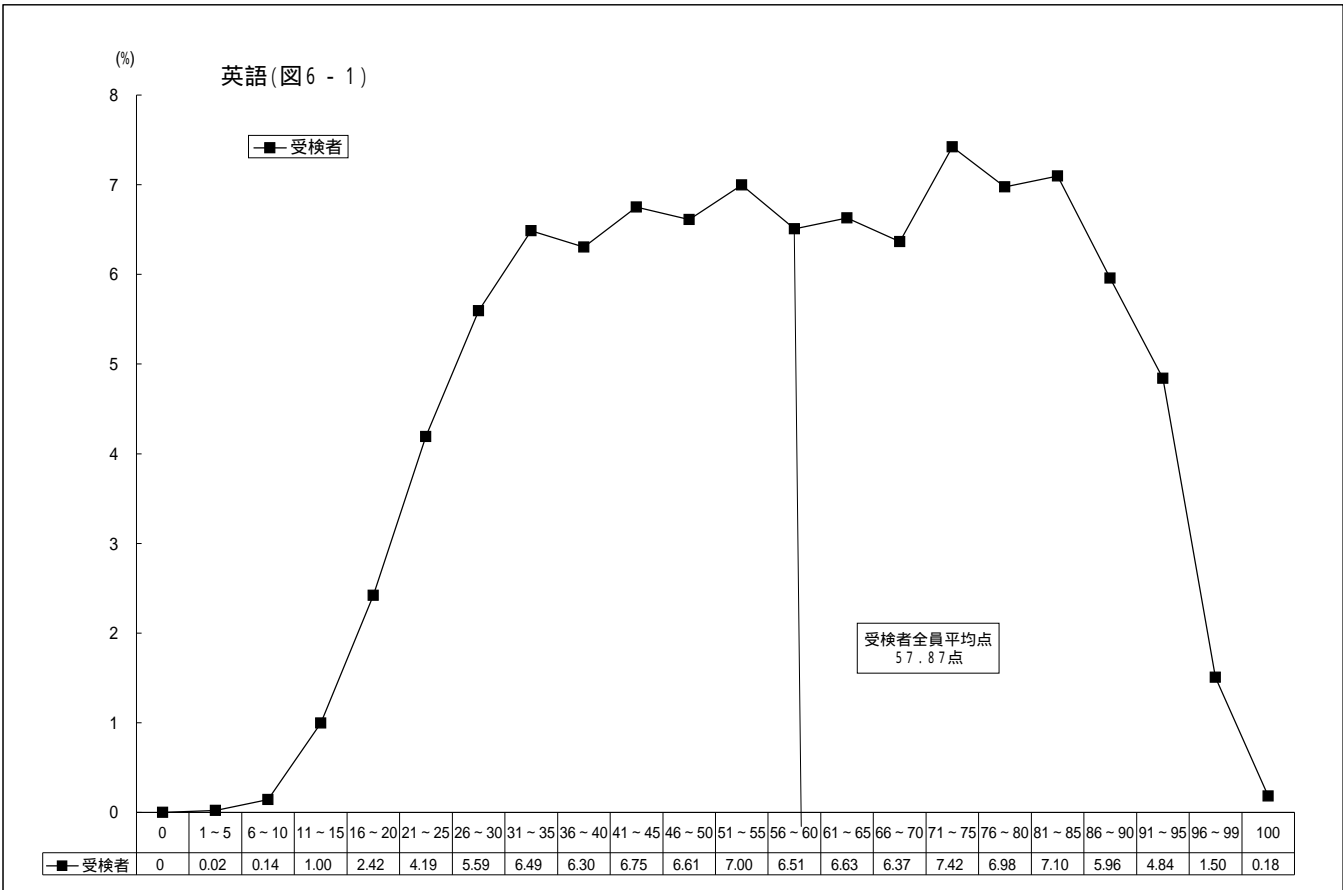




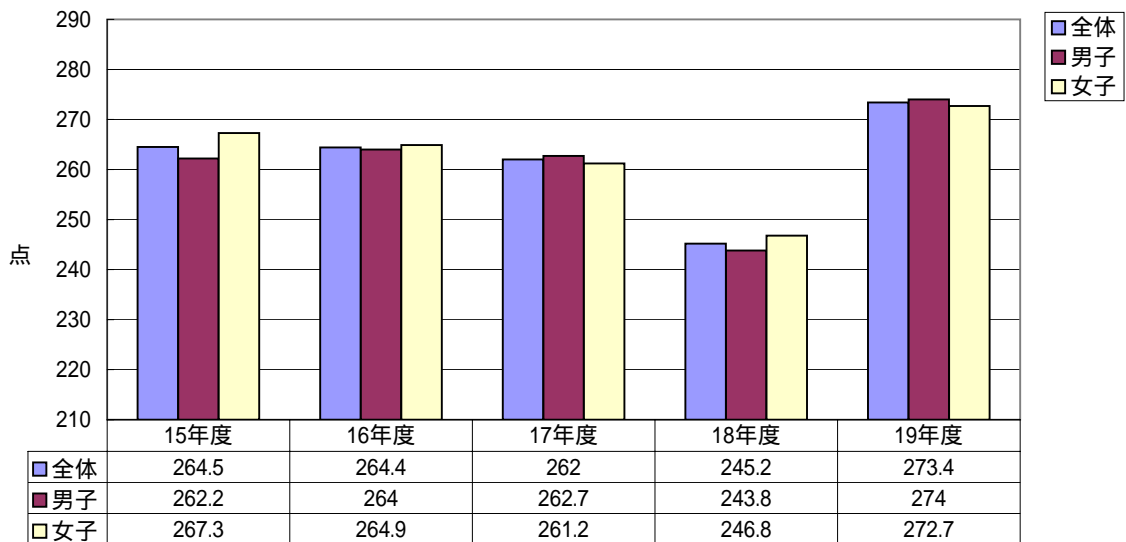




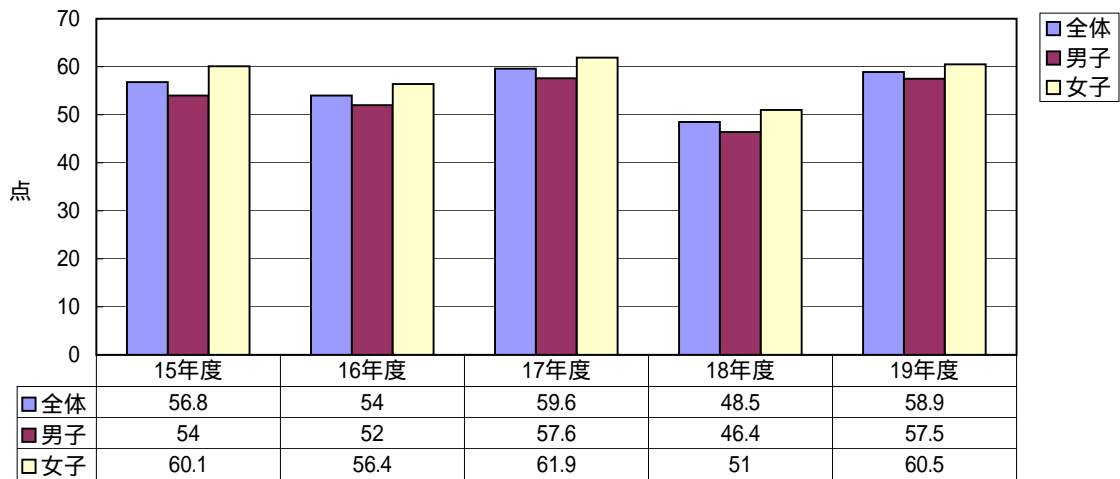




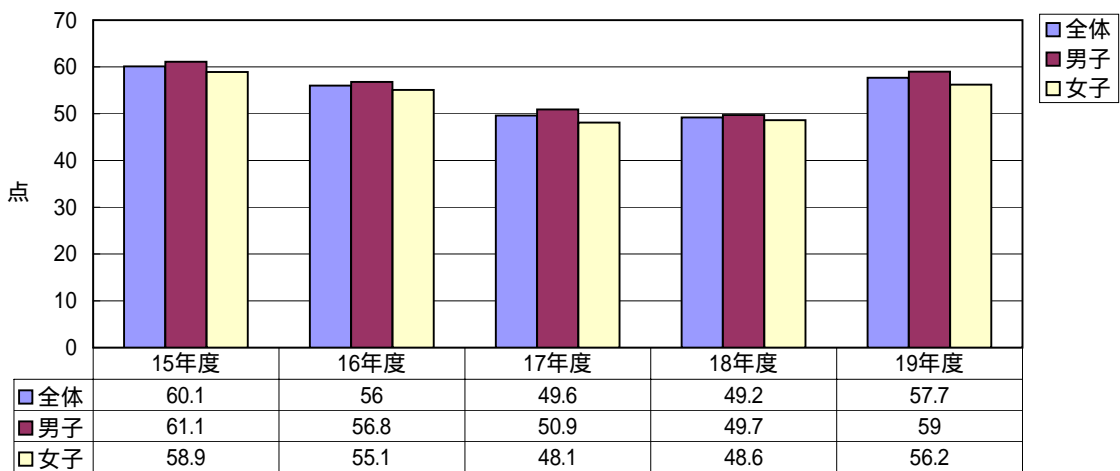
総合平均点(図1 - 3)



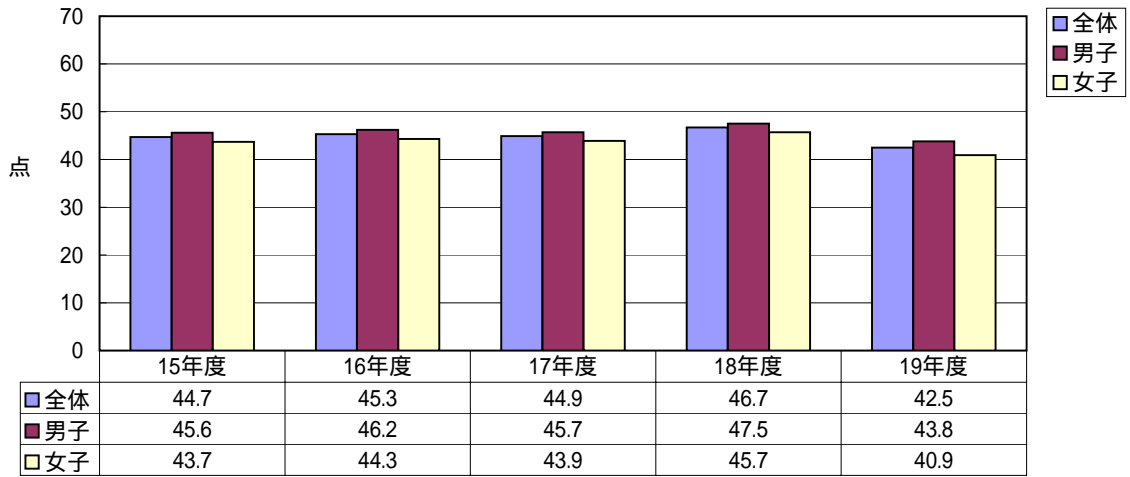
国語平均点(図2 - 3)



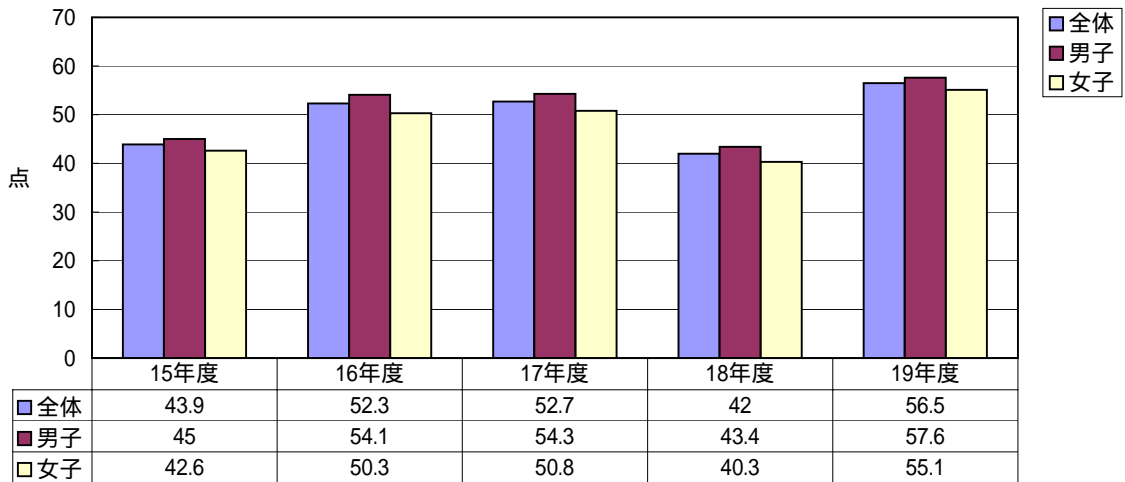
社会平均点(図3 - 3)



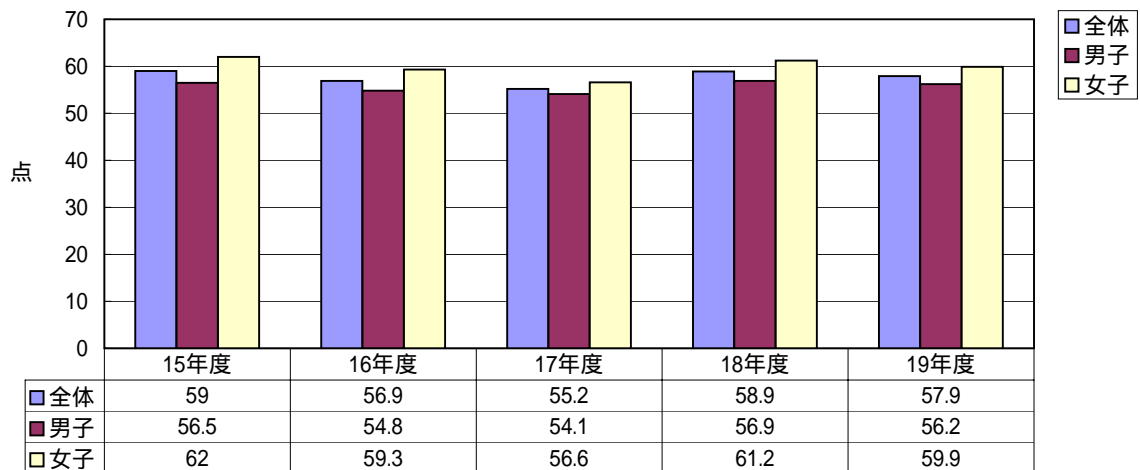
数学平均点(图4 - 3)



理科平均点(图5 - 3)



英語平均点(图6 - 3)



平成19年度 正答率調査表

【国語】

問題		正答数 (%)	誤答数 (%)	無答数 (%)	問題		正答数 (%)	誤答数 (%)	無答数 (%)		
一	一	ア	86.6	11.0	2.4	四	—	69.6	30.4	0.0	
		イ	94.1	4.7	1.2		二	(1)	38.9	61.1	0.0
		ウ	68.9	23.2	7.9			(2)	46.5	52.6	1.0
		エ	99.8	0.2	0.0		三	(1)	77.1	21.9	1.0
		オ	90.3	8.5	1.2			(2)	22.9	76.9	0.2
	二	ア	87.0	8.7	4.3		四	49.3	50.7	0.0	
		イ	81.2	15.8	3.0		五	得点	人数	得点	人数
		ウ	65.9	20.3	13.8			0	2.3	8	15.5
		エ	87.6	5.3	7.1			1	0.3	9	19.9
		オ	75.1	9.3	15.6			2	0.7	10	12.9
	三	(1)	94.3	5.7	0.0			3	1.6	11	8.3
		(2)	31.6	68.4	0.0			4	1.1	12	4.1
	四	67.3	32.7	0.0	5			4.1	13	3.1	
	二	イ	78.3	21.7	0.0			6	11.6	14	1.3
カ		68.8	31.0	0.2	7	12.9	15	0.3			
三	一	a	68.6	30.8	0.6						
		b	49.9	49.5	0.6						
	二	43.7	56.1	0.2							
	三	7.5	73.0	19.5							
	四	86.2	10.8	3.0							
	五	(1)	12.4	86.4	1.2						
		(2)	50.1	48.7	1.2						
六	58.2	41.4	0.4								

【社会】

問題		正答数 (%) (部分点数)		誤答数 (%)	無答数 (%)	問題		正答数 (%) (部分点数)		誤答数 (%)	無答数 (%)		
1	1	(1)	56.3	43.7	0.0	2	2	(1)	58.1	41.9	0.0		
		(2)	91.9	8.1	0.0			(2)	3点	36.8	58.9	2.4	
			59.5	40.5	0.0				2点	1.8			
		2	(1)	山形	2点			56.3	39.3	4.3	(3)	27.9	71.9
	福島			1点	0.0			(4)			64.2	35.8	0.0
	3	(2)	84.8	15.2	0.0		(5)	51.6	48.2	0.2			
			(1)	3点	49.5		49.7	0.6	(1)	64.6	35.2	0.2	
		2点	2.5	(2)	83.4					16.6	0.0	X	50.2
		ア	3点		46.6		4.0	0.0	(2)	Y	3点		21.9
			2点	0.0	2点					13.2	1点	3.0	
		イ	3点	4.1	4.0		0.0	(3)	a	3点	55.5	40.1	4.5
			2点	0.0					2点	0.0			
		ウ	3点	48.7	4.0		0.0	2	(1)	58.3	41.5	0.2	
	2点		0.0	(2)						47.4	52.0	0.6	
(3)	a	40.7	59.3	0.0	(3)	3点	88.3	3.0	1.2				
	b	53.2	46.4	0.4		2点	7.5						
(4)	カイロ	60.0	41.3	0.0	1	33.4	66.2	0.4					
	ロンドン	72.3	29.1	0.2		2	(1)	3点	53.8	42.3	3.8		
2	1	(1)	3点	88.4	11.6			0.6	(2)			74.7	24.7
		2点	1.7	(3)		52.6	45.7			1.6	(1)	66.0	33.6
		(2)	53.8	46.2		0.0	3		(2)	b		3点	48.0
	ア	4点	1.7	19.4	9.9	(3)		74.5		20.6	5.0		
		3点	1.0				c	3点	28.5	65.0	6.3		
	2点	3.1	4	(1)	2点	0.0		42.3	3.8				
	1点	0.6			(2)	74.7	24.7			0.6			
	イ	4点	7.2	19.4		9.9	(3)	66.0	33.6	0.4			
		3点	0.8		b			3点	48.0	35.6	9.5		
	ウ	2点	6.6	19.4		9.9	(1)	74.7	24.7			0.6	
		1点	0.2		c			3点	28.5	65.0	6.3		
	イ	4点	31.5	19.4		9.9	(2)	74.7	24.7			0.6	
		3点	3.3		(3)			66.0	33.6	0.4			
	ウ	2点	15.7	19.4		9.9	(1)	b	3点	48.0	35.6	9.5	
1点		0.4	c		2点			0.2	65.0	6.3			

【数学】

問題	正答数 (%)				問題	正答数 (%)							
	正答数 (%)	部分解答数 (%)	誤答数 (%)	無答数 (%)		正答数 (%)	部分解答数 (%)	誤答数 (%)	無答数 (%)				
1	1	96.1		3.9	0.0	4	1	(1)	A	88.0		11.0	1.0
	2	85.2		13.4	1.4			B	52.0		33.9	14.0	
	3	88.6		11.2	0.2		(2)	11.8		38.9	49.3		
	4	95.3		3.7	1.0	2	6.1	8.6	24.6	60.7			
	5	84.9		14.5	0.6	5	1	70.4		22.9	6.7		
	6	92.1		7.6	0.2		2	32.7		42.6	24.7		
					3		1.6		28.8	69.6			
2	1	88.6		9.1	2.2	6	1	61.5		30.6	7.9		
	2	85.8		12.6	1.6		2	5.7	6.9	27.8	59.6		
	3	90.1		9.3	0.6	7	1	12.4		68.0	19.7		
	4	64.5		33.1	2.4		2	3.7		49.7	46.7		
	5	65.5		25.6	8.9		3	0.6		34.7	64.7		
3	1	31.4		52.5	16.1								
	2	(1)	15.2		57.8	27.0							
		(2)	14.2	9.3	39.1	37.3							
	3	4.5	5.9	32.9	56.8								

【理科】

問題	正答・部分点数 (%)			誤答数 (%)	無答数 (%)	問題	正答・部分点数 (%)			誤答数 (%)	無答数 (%)		
	正答 (%)	2点 (%)	1点 (%)				正答 (%)	2点 (%)	1点 (%)				
1	1	75.1		24.9	0.0	5	1	87.9		11.9	0.2		
	2	84.8		15.2	0.0		2	90.9		8.9	0.2		
	3	48.6		51.4	0.0		3	77.1		22.9	0.0		
	4	54.4	1.2	0.8	40.7		2.8	4	記号	90.5		8.3	0.8
						理由	62.1			2.4	34.2	1.2	
2	1	(1)	54.9		43.3	1.8	6	1	64.8		29.4	5.9	
		(2)	59.9		40.1	0.0		2	(1)	68.0		30.4	1.6
	2	(1)	63.4		36.4	0.2			(2)	9.9		88.9	1.2
		(2)	51.4	1.0	2.2	40.5			4.9	(3)	64.2		29.6
3	1	31.2		65.4	3.4	3		言えること	57.9		0.0	29.8	11.9
	2	(1)	59.5	0.2	36.6			3.6	単位	73.7		18.4	7.9
		(2)	50.8		47.8	1.4	7	(1)a	84.7		16.1	0.0	
	3	15.3	8.4	0.0	73.3	3.1		(1)b	63.2		36.8	0.0	
	4	36.4		63.2	0.4	(2)		2.6		90.9	4.5		
4	1	(1)A	43.3		49.8	6.9		2	(1)	60.9		34.2	4.9
		(1)B	80.2		15.8	2.4	(2)		26.1		61.9	11.7	
		(2)	49.2	0.0	49.2	1.6	8	1	67.7		28.4	4.1	
	2	(1)	77.3	0.4	0.0	21.3		1.0	2	52.6		46.6	0.8
(2)記号		79.4		19.4	1.2	3		48.4		50.8	0.8		
(2)名称		78.7		16.8	4.5	4		67.1		25.8	7.1		

【英語】

問 い	正答数(%)	誤答数(%)	無答数(%)	問 い	正答数(%)	誤答数(%)	無答数(%)			
1	1	93.1	6.9	0.0	4	6	61.5	33.2	5.3	
	2	95.5	4.5	0.0			54.3	35.6	10.1	
	3	78.1	21.9	0.0			38.9	46.0	15.0	
	4	52.2	47.8	0.0						
2	1	91.7	8.3	0.0	1	a	76.5	22.9	0.6	
	2	56.9	43.1	0.0		b	66.2	32.2	1.6	
	3	84.2	15.8	0.0		c	60.3	38.1	1.6	
	4	73.9	26.1	0.0	2		61.1	37.4	1.4	
	5	81.0	19.0	0.0			64.0	34.6	1.4	
3	1	69.4	30.4	0.2	3	ア	55.9	38.9	5.3	
	2	66.2	33.6	0.2		イ	73.1	21.7	5.3	
	問 い	点 数	人 数		4		6	50.0		
	3	4	35.3				3	39.3		
		3	9.1				0	10.7		
		2	9.1				3点, 0点のうち, 無答が			
		1	3.2				ひとつの者の数		0.4	
		0	43.2				ふたつの者の数		5.3	
	0点のうち無答数		50.0		5		10	11.3		
	問 い	点 数	人 数				9	4.5		
4	4	25.6				8	9.5			
	3	14.2				7	4.9			
	2	12.4				6	4.0			
	1	8.7				5	5.1			
	0	39.1				4	4.0			
0点のうち無答数		57.5				3	4.3			
4	1	A	54.9	39.1		6.1		2	6.9	
		B	94.7	2.4		2.8		1	1.8	
		C	24.8	57.2	18.0		0	43.7		
	問 い	正答数	誤答数	無答数	解答の正誤にかかわらず,					
	2		43.1	56.7	0.2	6文以上書いた者の数		1.0		
			51.4	48.4	0.2	5文書いた者の数		41.5		
			41.7	58.1	0.2	4文書いた者の数		7.7		
			64.2	34.8	1.0	3文書いた者の数		6.9		
	問 い	正答数	誤答数	無答数	2文書いた者の数		7.3			
	3	47.0	51.2	1.8	1文書いた者の数		6.9			
問 い	点 数	人 数		無答の者の数		28.7				
4	4	5	21.1							
		4	18.6							
		3	18.8							
		2	8.7							
		1	6.1							
0		26.7								
0点のうち無答数		32.0								
問 い	点 数	人 数								
5	5	5	24.1							
		4	4.7							
		3	9.5							
		2	7.7							
		1	4.7							
		0	49.4							
0点のうち無答数		37.3								